

## 答 辞

教室の窓から見える柔らかな日差しの中に春の訪れを感じる今日の佳き日、私たち103名は、卒業を迎えます。本日は私たちのためにこのような盛大なる卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中ご出席くださいましたご来賓の皆様、校長先生をはじめ諸先生方、保護者の皆様、在校生の皆さんに卒業生一同、心より御礼申し上げます。

三年前、この体育館で行われた私たちの入学式。見慣れない校舎、真新しい制服、新しい仲間たち。期待と不安が入り混じった感情を抱き、今と同じこの場所に座っていたことを思い出します。

何をするにしても初めてのことばかりで、なかなか馴染むことができなかった私たちですが、行事などで率先して動く先輩方の姿に、強い憧れを抱きました。そして初めて後輩から「先輩」と呼ばれた二年生。照れくささを感じるとともに先輩としての自覚が芽生えた瞬間でした。

またたく間に月日は過ぎ、中学校生活が最後の一年となった三年生。私たちは「最高学年としてのプライドをもつように」と先生方からくり返し言われ、時には先生方の指導に反抗してしまったこともありました。しかし委員会や行事、部活動で、先頭に立って活動していくことを通して、私たちは最高学年としての役割の大切さに気づくことができました。

修学旅行では、普段の学校生活とは違った、特別な思い出をつくることができました。友達の知らない一面を知ることができ、新しい絆を紡ぐこともできました。

部活動では、仲間と喜びや悔しさなど多くの感情を共有してきました。思うような結果が出なくとも、悔しさをばねに日々の練習に本気で取り組みました。仲間と切磋琢磨し、励まし合ったあの日々は、私たちの青春そのものです。

潮音祭では、意見の対立が起こり、クラスがまとまらないこともありました。話し合いを重ね、クラスが一つになれたとき、美しい歌声が響き渡るようになりました。本番は合唱も有志発表も練習の成果を発揮し、一、二年生の笑顔を見ることができて、とても嬉しい気持ちになりました。

開催を諦めていた体育祭。先生方のお力添えにより、スポーツ大会として行われることになりました。開催の知らせを聞いたときはどのクラスも大喜びでした。本番は想像以上に盛り上がり、会場が一体感で包まれました。

楽しい時は駆け足で過ぎ去ってゆき、本格的な受験勉強が始まりました。毎月のテストの点数が伸び悩み、人知れず涙を流した日もありました。それでもここまで頑張ることができたのは、周りの人たちのおかげです。

602日。これは3学年の仲間と出会ってから今日までともに過ごしてきた時間です。かけがえのない友達がいたから、私たちは辛いことも乗り越えることができたのだと思います。この学年で三年間過ごすことができ、本当に良かったと心から感じています。みんなと過ごすのも今日が最後だと思うと、寂しさがこみ上げてきます。今まで本当にありがとう。

私たちのそばで寄り添ってくださった先生方。人間関係や進路で悩んでいるとき、いつも

親身になって相談に乗ってくださいました。私たちを決して見離さず、陰で温かく見守ってくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。どうかこれからも私たちの道標であり続けてください。

そして、いつも私たちをいちばん近くで支えてくれた、お父さん、お母さん、家族のみんな。私たちはその優しさに甘え、たくさん迷惑をかけました。難しい年頃で素直になれず、反抗的な態度をとってしまうこともありました。私たちのために言ってくれた言葉も心の中ではしっかり受け止めていました。そんな私たちを優しく、大きな心で受け止めてくれたことに本当に感謝しています。どんなときでも私たちを第一に考え、一番の理解者でいてくれたこと、いつもは言葉にできないけれど、心から感謝しています。ありがとう。

いつも私たちを慕って、頼ってくれた在校生の皆さん。私たちは先輩らしい姿を見せることができたでしょうか。皆さんの存在があったからこそ、先輩としての自覚をもち、ここまで頑張ってくることができました。本当にありがとう。中学校生活は長いようであっという間です。だからこそ、今という一瞬一瞬を、仲間と共に大切に過ごしてください。そして、小名浜第二中学校を今より盛り上げていってください。きっと皆さんならできるはずです。心から応援しています。

最後に私たちの母校、小名浜第二中学校のますますの発展と皆様のさらなる活躍を祈念し、答辞とさせていただきます。

令和6年3月13日 卒業生代表